



# 「大韓航空機撃墜事件」をどう見るか



83.9.12

No. 1441

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
(鉄電) 三九三五六・(公衆) 〇四七二二二七・〇七

## 「反ソ・反共・愛國」をがなりたてての 反動中曾根の軍事大国化攻撃の激化を許すな

乗員・乗客二六九人を乗せたアンカレッジ経由ソウル行きの大韓航空のジャンボ機が、九月一日未明、サハリン上空で消息を断ちました。その後、今日段階までにわかっていることは、大韓航

空機の民間機定期航路としては考えられない異常な「コース逸脱—ソ連軍事基地上空通過」（領空侵犯）という事実と、それに対する「ソ連防空軍機のミサイルによる撃墜—全員死亡」という

事実がほぼ確認されました。それ以上の全容の詳細はいまだ不明です。

この事件の発生と同時に、日・米・韓支配階級は、ことさらのように一斉にソ連脅威論をがなりたて、ここぞとばかりに「反ソ・反共」の民意をあおりたてつつ、核武装・軍拡・戦争挑発行為の大反動攻撃にうつてでてきてています。

### 戦争前夜をおもわせる意図的、反ソ反共宣伝の洪水

今、日・米・韓支配者たちは、あらゆるマスコミ等を総動員し、「非人道的行為」「平和をおびやかす野蛮国ソ連」「ソ連に制裁を」「ソ連の侵入に備えて北方の防衛力の増強を」等々と、反ソ反共キャンペーンを連日のようにくりひろげています。そして、千葉駅前でも警察黙認のもとで野戦服・日の丸の右翼団体が連日の反ソ反共宣伝をくり返しているばかりか、ソ連国旗を焼くということまでおこなっています。

しかし、そもそも彼ら支配階級や右翼どもが一体「人命を尊重」し「人道的」であったことが一度だつてあったでしょうか。断じて否です。過去いく度もの戦争で何百何千万の人間を殺してきた支配者たち、そして今もなお国策の名をもって農民を虫けらのように圧殺し、「三百円」のたれこみでいとも簡単に国鉄労働者の首を切り、企業が生きのびるために何人の労働者を炭鉱の底に水没させ、数千の家族を閉山で路頭に追いだす彼らの一體どこに「人道」があるのか。彼らの狙いは、「人命」「人道」を反ソ反共、軍拡・侵略戦争の準備、愛国主義のありたてに悪どく利用している以外の何ものでもありません。

とりわけ、あのパレスチナ人民数千名の大虐殺の元凶レーガン、「たとえ二千万人の米国民が死のうと核戦争辞さず」と公言し、全世界に核兵器を配備し世界の至るところに侵略戦争を挑発してまわっている米帝レーガン。今なお原爆症で苦しみ殺されている被爆者にむかって「病は氣からだ」などと平然と居直り、原爆投下・核武装を全面肯定し、靖国公式参拝化・歯止めなき軍拡への道をつき進む日帝中曾根。さらに、あの残忍きわまりない光州大虐殺を平然とおこなってきた全斗煥、を見るとき、われわれはこれらの意図的な反ソ反共、祖国防衛キャンペーンを粉碎しなければなりません。

レーガン・中曾根の挑発的軍拡線こそ「事件」の元凶

過去にも全く同じような領空侵犯—それも決つてソ連重要戦略基地の上空—をくりかえしている大韓航空機がまたも常識では考えられないコースをとつて極東で最も緊張し最も重要視されているソ連軍基地に入ったことは、「民間機である」ことをタテとした、極めて意図的なスペイ飛行の可能性を示すと同時に、この大韓航空機とソ連軍の動行の細部にわたって自衛隊と米軍は終始つぶさに掌握していた上で、その後の対応と反ソキャンペーンと対ソ制裁行動への突入という経緯の示すものは極めて危険な内容をはらむものといえます。現に、米帝レーガンは中米ニカラグア、北アフリカチャド等で侵略戦争を具体的に開始しています。

そして何よりも、日帝中曾根自身が急速な軍事大国化・改憲をおし進め、日米運命共同体・極東ソ連軍と対決する不沈空母・4海峡封鎖・シーレーン防衛を叫びたて軍備増強に血道をあげていること、更に直接的にはソ連領土を射程に入れた米最新鋭戦略核爆撃機F16の三沢基地への編隊配備と初の巡航核ミサイル搭載戦艦ニュージャージー、世界最大最新鋭核空母カール・ビンソンの日本寄港承認と日米共同演習の強化等の軍事強化の路線が、サハリノ周辺の軍事的緊迫を一挙的に高め、今回の事件の基底的な要因をつくってきたことは明らかである。

このような米・日・韓の一体化した軍備強化と戦争挑発路線にひきまわされ、軍事的対抗にのみ走るソ連の対応は、全世界の労働者の連帯した国際反戦闘争の強化をもって、帝国主義と戦争をうちくだく」という労働者階級の闘いを裏切るものとして断罪されねばなりません。

### 十・九の大爆発でこたえよう

われわれは、反動中曾根内閣のこの「事件」をテコとした軍事大国化攻撃の大エスカレーション、とりわけ三里塚巨大軍事空港建設二期着工攻撃として凝縮していることをみすえ、10・9三里塚闘争の大爆発をもって、これをうちくだいていかなければなりません。10・9に総力結集をかちとろう。